

小中一貫教育をめざした学校評価の取組について

前原 隆志

A Study of School evaluation for Consistent education of elementary and junior high school

MAEHARA Takashi

(Received January 5, 2017)

キーワード：学校評価、小中一貫教育

はじめに

平成26年12月の中央教育審議会答申「子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について」¹⁾により、小中一貫教育の制度化が提言された。翌平成27年6月には学校教育法が改正され、小中一貫教育は平成28年度から制度化された。こうした動きを受け、全国的な取組は、今後さらなる進展が見込まれる。小中一貫教育とは、中教審答申の定義によれば、「小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育」とされている。

義務教育9年間の教育の一貫性が大切であることは、理念として自明のことであるが、現実には、小中一貫教育を実施している学校においても、中核的事項である「一貫カリキュラム編成」の実施率が、5割程度の現状にある。小中一貫教育の現状は、施設整備のハード面と、プランの策定や指導の工夫といったソフト面とで、同時並行的にスタートしたばかりとあってよい。一方、その成果の評価・検証について、中教審の実態調査では、「小中一貫の成果・課題の分析・評価指標の確立を課題と認識している取組が7割近くあり、小中合同での学校評価の実施率は3割程度」²⁾となっており、取組の評価や改善については、課題となっている。

こうした中、本稿で取り上げる田布施町教育委員会の取組は、学校評価の活用を通して小中一貫の教育を推し進めようとする実践事例として注目すべきものである。山口県教育委員会と田布施町教育委員会は、平成28年度文部科学省委託事業として「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業」を実施し、「小中連携及び地域連携に資する学校評価の在り方」を実践研究している。

筆者は、平成27年度から田布施町教育委員会の学校評価の改善に対する取組に関わっている。これまでに、町内全小・中学校における一貫したシステムの構築やスケジュール化等について、町教育委員会や町小・中学校長会を中心に提案を行ってきた³⁾。平成28年度の本事業実施に当たっては、学校評価の実質的担当者である田布施町教頭会を中心として、主として実務的な側面から、各種検討会や研修会に指導助言者として継続的に参加し、提案や資料提供を行う機会を得た。

本稿では、こうした取組を紹介し、学校評価が小中一貫教育の推進に果たす役割について述べたい。

1. 田布施町教育委員会の取組とその特色

本稿で取り上げる山口県田布施町は、山口県南東部にある人口約1万6,000人の町で、中山間地域に共通してみられる過疎化の進行や、少子高齢化の課題に直面している。

田布施町教育委員会では、教育からの地方創生をめざし、人口増加への起爆剤として、町内の学びの場を確保し、教育人材の流出を阻止すべく、教育における「田布施ブランド」の確立に向けた取組を進めている。具体的には、「義務教育9年間の教育の品質保証の実践」、「信頼と尊敬の師弟関係」、「願いと夢の実現

につながる教育」などを掲げている。

こうした取組の背景には、町内にある1中学校4小学校の取組の水準を一定化し、町内の小・中学校が一元となって、地域社会に貢献できる有為な地域人材を育成してほしいという強い願いがある。

このための具体的な手段として、「小中一貫の教育（田布施学園構想）部会」と「地域コーディネーター部会」の二つの分野で、取組を進めている。

このうち、特に「小中一貫の教育」に関しては、学校運営の重要な要素と捉えており、その成果を検証するための学校評価システムづくりに取り組んできた。以下に、これまでの取組を大まかに述べる。

1-1 学校評価システムづくりについて

田布施町では、平成27年度に、文部科学省委託事業による実践研究において、町内全小・中学校で共通する学校評価書を「田布施町モデル」として作成した。（図1 学校評価書（田布施モデル））

この学校評価書の特徴は、田布施町教育委員会と田布施町小・中学校校長会が何度も協議を繰り返し、教育行政の立場と、校長として児童生徒の実態を踏まえた指導の立場とが融合している点である。

具体的には、「評価領域」及び「重点目標」は、主として町教育委員会で大まかな方針を示し、そのための「具体的な方策」及び「評価基準」については、主として校長会の意見を反映して設定されている。このように、教育委員会と学校が一体となり、町内全体の方針を共有し、そのための具体策と達成目標数値を明示することで、町内の学校教育の指導水準を確保しようとしている。田布施町では、各地域に複数の小学校が分散して立地しており、児童は1つの中学校に進学する。こうした状況の中で、学校評価を活用することで、達成すべき児童生徒像を明らかにし、その実現に向けた指導を進めることが、真の意味での小中一貫の教育につながるという発想に基づいている。

1-2 学校関係者評価の充実

さらに、前述の学校評価書を活用し、学校関係者評価を充実させるための組織を整えてきた。

学校関係者評価とは、学校運営協議会委員である地域住民代表等が、学校が作成した学校評価書を見て、その取組に対して意見を述べ、評価するものである。しかし、一般には、学校サイドからの説明が中心となり、資料の多さや数値の読み取りの難しさから、建設的な改善意見等が出にくいという感想を聞くことが多い。

田布施町では、町内小・中学校の学校運営協議会委員が一堂に会する「田布施町CS委員会」を開催して、地域の子どもの状況や課題を共有する取組を進めている。その際、参加者に対して、学校評価の果たす役割について理解が深まるよう、町教育委員会や筆者から、具体的な解説が行われている。

そこでは、「学校評価は、地域住民に対する学校の通知表である」といった学校評価の目的、評価項目が設定されるまでの様子、結果を活用した各学校の取組の改善などについて、全体像が説明されている。また、町内で共通する評価項目を作成するに当たり、校長会で協議された内容として、「読書好きな子供になってほしい」という願いから、評価項目に「読書貯金通帳の活用」が取り上げられた経緯や、めざすべき児童生徒の姿として挙げられた「年間50冊の読書」とは、毎週1冊ずつ読み続けることを指導の目標していることなどを紹介している。

それまで、学校評価になじみのなかった地域住民も、学校評価を活用して町内全体の教育水準を高めていこうとする教育委員会や学校の積極的な動きを知ることで、取組に関心をもつことができる。このように、校区、校種を越えて、情報を共有し、町全体として一体的な取組が進められることで、学校に対する信頼感や協働の意識は高まると考えられる。

1 学校教育目標							
教育目標 中・長期目標							
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)							
① ② ③							
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取組むべき課題							
① ② ③							
4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	達成度	達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教育の品質保証(学習指導)	学びの基礎づくり	授業レベル表等の活用による学習規律の確立	4:学力調査質問項目の達成率80%以上 3:学力調査質問項目の達成率75% 2:学力調査質問項目の達成率50% 1:学力調査質問項目の達成率50%未満				
	学びの質の向上	成長診断テスト、学力定着状況確認問題による学力向上	4:学力定着状況確認問題県平均2ポイントUP 3:学力定着状況確認問題県平均1ポイントUP 2:学力定着状況確認問題県平均 1:学力定着状況確認問題県平均以下				
	読書活動の推進	読書貯金通帳の活用	4:年間一人平均50冊以上 3:年間一人平均30冊 2:年間一人平均20冊 1:年間一人平均20冊以下				
教育の品質保証(生徒指導)	人格形成	成長診断テスト(生活保証)の1ヶ月継続実施	4:成長診断テストの共通項目達成率80%以上 3:成長診断テストの共通項目達成率70% 2:成長診断テストの共通項目達成率50% 1:成長診断テストの共通項目達成率50%未満				
	健康な体づくり	体力診断テストの実施	4:体力合計点Tスコア全国平均52%以上 3:体力合計点Tスコア全国平均52%未満 2:体力合計点Tスコア全国平均50% 1:体力合計点Tスコア全国平均50%未満				
	豊かな心や立腰教育	道徳指導と無言掃除・整理整頓の徹底	4:無言掃除の子どもの割合90%以上 3:無言掃除の子どもの割合75% 2:無言掃除の子どもの割合50% 1:無言掃除の子どもの割合50%未満				
職員研修	指導力の向上	板書計画・授業モデルを活用した授業	4:毎日1時間略案づくり90%以上 3:毎日1時間略案づくり75% 2:毎日1時間略案づくり50% 1:毎日1時間略案づくり50%未満				
	資質の向上	コミュニケーション能力や地域参画意識の向上	4:校外研修参加年1回以上90%以上 3:校外研修参加年1回以上75% 2:校外研修参加年1回以上50% 1:校外研修参加年1回50%未満				
	人材育成	チーム研修による組織力・指導力の育成	4:校内研修年15回以上 3:校内研修年10回 2:校内研修年5回 1:校内研修年5回未満				
連携	コミュニティ・スクールの推進	異校種やコーディネーターと日常的・組織的交流	4:地域との交流に関わった子どもの割合90% 3:地域との交流に関わった子どもの割合75% 2:地域との交流に関わった子どもの割合50% 1:地域との交流に関わった子どもの割合50%未満				
	家庭や地域との連携	家庭との連携による家庭学習の充実	4:家庭学習の目標時間の達成率90%以上 3:家庭学習の目標時間の達成率75% 2:家庭学習の目標時間の達成率50% 1:家庭学習の目標時間の達成率50%未満				
業務改善	日常的な業務	チーム学校を目指す適正で効果的な業務分担	4:業務分担の適正化90%以上 3:業務分担の適正化75% 2:業務分担の適正化50% 1:業務分担の適正化50%未満				
	会議時間の短縮	勤務時間の適正管理	4:職員会議の時間を1時間以内にする90%以上 3:職員会議の時間を1時間以内にする75% 2:職員会議の時間を1時間以内にする50% 1:職員会議の時間を1時間以内にする50%未満				
6 学校評価総括(取組の成果と課題)							
① ② ③							
7 次年度への改善策							

図1 学校評価書(田布施モデル)

2. 田布施町教頭会の取組

これまでの取組で、課題として残されたのは、取組の成果検証を具体的にどのように進めるかについてである。特に、町内全小・中学校の学校評価を一貫性のあるものにする 것과同時に、実務面で、業務改善を進めることが課題となってきた。この課題に取り組んだのが、学校評価の実務を担当する、各学校の教頭で構成される田布施町教頭会である。本章では、教頭会での取組を分析し、併せて筆者が提供した学校評価集計ファイルについても紹介したい。

2-1 教職員、児童生徒、保護者への質問項目の設定

学校評価を実施するに当たり、まず検討すべきことは、基礎データとなるアンケートをどのように実施するかという点である。前に示した学校評価書（田布施プラン）では、「達成状況の診断・分析の方法」の欄が空欄になっている。ここに、アンケートの質問項目を具体的に記入し、この設問に従ってアンケートを作成する。実施後、結果を集計・分析し、「達成度」欄に、1～4のいずれかを判定して記入する。

質問項目の設定に当たり、小中一貫教育を進める観点から、田布施町で検討されたことをまとめると、次の8点になる。

小中一貫教育をめざした学校評価アンケートの質問項目設定のポイント

- ①原則として、町内全小・中学校で、共通の質問項目とする。
- ②アンケート対象を、教職員、児童生徒、保護者の3者とし、同じ内容を聞く。
- ③質問項目は、町の重点取組事項に沿って絞り込み、負担軽減を図る。
- ④全国平均や山口県平均と比較できるように、国や山口県で実施する児童生徒質問紙の調査項目と同じ質問項目を取り上げる。
- ⑤1学期末と2学期末の2回実施し、変容の分析ができるよう、通年で調査できる質問項目とする。
- ⑥質問項目は、事実を聞くことを原則とする。
- ⑦事務負担軽減のため、S Q S（共有アンケート実施支援システム）を活用し、選択肢を4択にそろえる。
- ⑧各学校の特色ある取組に関する評価項目は、学校ごとに独自に質問項目に加える。

① 原則として、町内全小・中学校で、共通の質問項目とする。

小中一貫教育を進める上で、町内全小・中学校が育成すべき子ども像を共有し、共通の指導方針に沿って教育活動を展開することはきわめて重要である。そのために、評価項目を町内で共通化することが求められる。作業手順としては、まず教職員用アンケートの質問項目が作成された。その過程で、学校ごとの指導の内容や程度に差があることが改めて意識された。

一例を挙げると、多くの小学校では、姿勢を正して、物事に真摯に向き合う指導を「立腰（りつよう）教育」と名付け、継続的に指導して成果を上げ、町教育委員会もその方針を推進してきた。しかし、その徹底状況には学校間で異なり、指導する際に「立腰」という言葉を使用するかどうかについても、差が見られた。

そこで、町内共通の質問項目としては、教職員用に「あなたの授業では、児童（生徒）は腰骨を立てて座り、足裏をきちんと付けていますか。」とした。こうした共通質問項目の設定は、町教育委員会の方針を受けながら、域内にある学校の優れた取組に学び、町内全体の水準を上げていこうとする意思の表れと捉えることができる。

② アンケート対象を、教職員、児童生徒、保護者の3者とし、同じ内容を聞く。

続く作業手順は、教員が指導した内容が、児童生徒にどこまで意識され、実行されているかを確かめる質問項目の設定である。

先述の姿勢に関する児童生徒用の質問項目は、「あなたは、腰骨を立てて座り、足裏を床にきちんと付けることができますか。」と設定されている。

また、教職員、児童生徒、保護者の3者に同じ内容を聞くことで、異なる立場から、より客観性のある評価を行おうとする試みもされている。

例えば、あいさつに関する質問項目として、以下の設問がある。

○教職員用 「あなたの学級（学校）の児童は、進んであいさつができますか。」

○児童生徒用 「あなたは、出会った人に進んで元気なあいさつができますか。」

○保護者用 「あなたのお子さんは、進んで元気なあいさつができますか。」

このように、教員が指導したと考えていることと、実際に児童生徒本人の意識、さらに保護者から見た実態の間のずれを把握することで、状況を客観的に捉え、指導の改善に生かそうとする試みが全設問に仕込まれている。

③ 質問項目は、町の重点取組事項に沿って絞り込み、負担軽減を図る。

一般に、アンケート調査は、実態把握の具体化を追究するあまり、網羅的になりがちである。その結果、アンケート項目の多さに回答者が抵抗感を抱くことや、集計担当者の労力や負担が増加することが予想される。

こうしたことを避けるため、本アンケートでは、大きく、1) 教育の品質保証（学力・生活）、2) 家庭・地域・学校との連携、3) 職員研修及び業務改善の3つの大項目を設定し、最小限の設問数にとどめている。こうした工夫は、調査担当者の負担を軽減するだけでなく、骨太の基本方針がどこまで実施されているかを、継続的に把握する方法として大切であると考えられる。

④ 全国平均や山口県平均と比較できるよう、国や山口県で実施する児童生徒質問紙の調査項目と同じ質問項目を取り上げる。

学校評価が集計された後、その数値をどのように判断すべきかに迷う場面がある。例えば肯定的評価が60%の場合、成果とみるべきか、それとも課題とみるべきかというケースである。

判断の基準の一つとして、全国平均や県平均と比べることができれば、取組をより客観的に評価することが可能となる。そのために、全国学力・学習状況調査や山口県学力定着状況確認問題など、水準化された調査と同じ設問を設定することが効果的である。

本アンケートでは、学習内容の理解について、児童生徒に「あなたは、授業がよくわかりますか。」と問う設問がある。これは、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙で「国語（算数・数学）（理科）の授業の内容はよくわかりますか。」と問われている内容と同様である。また山口県の調査でも同様の設問があり、小学校3年から中学校2年までの県平均と比較が可能である。こうした水準化された数値との比較を通して、取組の成果や課題が見えてくると考えられる。

⑤ 1学期末と2学期末の2回実施し、変容の分析ができるよう、通年で調査できる質問項目とする。

本アンケートは、1学期末と2学期末の2回実施し、長期休業中に集計して変化を分析する。そこで、通年で調査できる質問項目とし、途中経過をもとに年度後半の取組を改善できるようにしている。

例えば、教職員研修に関する設問では、「本年度、これまでに、あなたが参加したチーム研修（ブロック別、部会別、学年別、ミニ研修等）は、何回ですか。」と設定されている。1学期末の状況を踏まえ、年間目標回数や全国平均回数、あるいは前年度の途中経過と比較すれば、研修の進捗状況が把握できる。これをもとに、2学期以降の研修計画を改善することが可能となる。

⑥ 質問項目は、事実を聞くことを原則とする。

個別の設問を作成する際に留意されているのは、「事実を尋ねること」を中心としていることである。このため、文末表現を「～していますか。」「～できますか。」などとして、実際に行動できているかを尋ねている。

一方で、保護者は、子どもの状況について間接的に判断せざるを得ない場面もあることから、設問として「～と思いますか。」といった文末表現も散見される。本来は、「事実」を確認したいが、それが難し

い場合には、「意識」を尋ねるという形式になっていることがわかる。

⑦ 事務負担軽減のため、S Q S（共有アンケート実施支援システム）を活用し、選択肢を4択にそろえる。

本アンケートは、S Q Sシステム⁴⁾を活用し、コンピュータ処理できる質問紙で回答者に提供される。基本的な選択肢の設定に当たっては、回答や集計の利便性、また他項目との比較を容易にするといった観点から、「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「思わない」の4択としている。

この工夫により、肯定派と否定派の割合を大まかに把握したり、「そう思う」という積極的肯定派の状況を把握したりすることが可能になる。また、グラフ化した際、視覚的に他項目との比較ができ、成果や課題を一目で捉えることができるようになる。

⑧ 各学校の特色ある取組に関する評価項目は、学校ごとに独自に質問項目に加える。

ここまで、町内の共通項目を作成し評価する工夫について注目してきたが、一方で、各学校の独自性や特色ある取組に関する評価を確認することも大切である。本アンケートでは、学校ごとに独自に質問項目を設定し付加できる工夫がされている。こうした取組は、町内各地域の独自性を発揮させると共に、学校評価の固定化を防ぎ、教育水準の一層の向上に向け、実践的に取組が進められるきっかけになると考えられる。

いずれかの学校が、独自の取組により高い成果を上げることができれば、他の学校もその手法に学び、その内容を問うための評価項目が、町内共通となっていくことも考えられる。指導改善を推進するために、まず、力を入れて取り組んでいることに注目して評価するといった「指導と評価の一体化」の理念が、ここに現れている。

2-2 S Q Sシステムによる学校評価アンケート用紙の作成

町内全域の学校評価項目が統一されれば、アンケート用紙も町内全校で共用できるはずである。しかしその一方では、学校の独自性を生かすという要素もあることから、完全に同一用紙を使用することはできない。こうした状況に対応するため、以下の手順が取られた。

① S Q Sシステム活用研修会の開催

5月下旬に、町内教頭研修会において、やまぐち総合教育支援センターのサテライト研修講座として、S Q Sシステム活用研修会を実施した。

この研修会では、各学校の教頭が、S Q Sシステムを活用して自分で質問用紙を作成したり、訂正したりできるようにした。また、ドキュメント・スキャナーを使って、質問用紙を読み取り、集計して、グラフ化する等の演習を行っている。

山口県内の多くの学校では、これまでも、このシステムを使った学校評価の取組が進められている。今後、個別の学校単位だけでなく、中学校区単位など複数の学校が共同で作業に取り組めば、データを有効に活用できるだけでなく、業務改善にもつながるものと考えられる。

② S Q Sシステム質問紙のひな形の提供

教頭会が作成した質問文と選択肢をもとに、筆者は、S Q Sシステムによる質問紙のひな形を作成し、町内全小・中学校へ提供した。この質問紙は、教職員用、児童生徒用、保護者用の3種類があり、基本的な町内共通質問項目と、学校独自の質問項目とで構成されている。

6月中旬に実施した教頭研修会では、教頭が一堂に会して、このひな形を元に質問紙を作成し、入力方法について相互にアドバイスし合いながら、学校名や独自の質問項目等を入力し、質問紙を完成させた。

提供したひな形として、図2で教職員用を、図3で児童生徒用を、図4で保護者用をそれぞれ示す。

第1回 学校評価アンケート（教職員用）

田布施町立〇〇小学校

選択式の回答は、該当箇所のマーク①を塗りつぶしてご回答ください。
 ①：空白マーク ②：正しいぬりつぶし ③：不十分なぬりつぶし
 記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。
 この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り返しを付たりしないように注意してください。

(1) 1学期の取組を振り返って、お答えください。

	A そう思う	B だいたい いそう思う	C あまり思わない	D 思わない
1 あなたの授業では、児童は学習用具を準備して着席し、静かに待っていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 あなたの授業では、児童は腰骨を立てて座り、足裏を床にきちんとつけていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 あなたの授業では、児童は教室移動は並んで黙って移動していますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 あなたの授業では、児童は人の話を聞くと、相手の方向を向けていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 あなたは、授業モデルを基に授業改善に努めていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 あなたの学級（学校）の児童は、読書貯金通帳を活用し、読書に親んでいますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 あなたの学級（学校）の児童は、進んであいさつができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 あなたの学級（学校）の児童は、相手の目を見て話を聞いていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9 あなたの学級（学校）の児童は、「はいっ」と返事をしていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10 あなたの学級（学校）の児童は、外遊びや運動、スポーツに進んで取り組んでいますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11 あなたの学級（学校）の児童は、そうじの時間に無言で進んでそうじをしていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12 あなたは、よりよい授業づくりのために、毎日一つ以上の教案（授業ノート、板書型指導案等）を作成して授業に臨んでいますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13 あなたは、子どもが地域の大人と関わるような活動を仕組んでいますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14 あなたは、子どもが家庭学習の目標時間（10分×学年）が守れるように、課題の与え方を工夫していますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15 あなたは、子どもが家庭学習の目標時間（10分×学年）が守れるように、学習の仕方の指導を行っていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16 あなたの学校では、適正に業務分担されていると思いますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

図2 学校評価アンケート（教職員用）

	A そう思う	B だいたい いそう思う	C あまり思わない	D 思わない
17 あなたの学校の職員会議は、1時間以内に終わるような工夫がされていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (2) 本年度これまでに、校外における任意参加型（初任研・10年研、郡・町教研等決められた研修以外の）の研修会に参加しましたか。
 参加した 参加していない
- (3) 本年度、これまでに、あなたが参加したチーム研修（ブロック別、部会別、学年別、ミニ研修等）は、何回ですか。
 15回以上 14～10回 9～5回 4回以下
- (4) ○その他、上記の事柄に対して、ご意見がありましたらお書きください。その際、内容を詳しくお聞きしたい場合がありますので、できるだけ記名をして提出してください。

第1回 学校評価アンケート（小学生用）

田布施町立〇〇小学校

選択式の回答は、該当箇所のマーク①を塗りつぶしてご回答ください。
 ①：空白マーク ②：正しいぬりつぶし ③：不十分なぬりつぶし
 記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。
 この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り返しを付たりしないように注意してください。

(1) 1学期をふりかえって、答えましょう。

	A そう思う	B だいたい いそう思う	C あまり思わない	D 思わない
1 あなたは、学習用具を準備して着席し、静かに待つことができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 あなたは、腰骨を立てて座り、足裏を床にきちんと付けることができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 あなたは、教室移動の時、並んで黙って移動することができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 あなたは、人の話を聞くと、相手の方向を向けることができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 あなたは、授業がよく分かりますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 あなたは、本を読むことが好きですか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 あなたは、であった人にすすんで元気なあいさつができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 あなたは、はなす人の目を見て、はなしを聞いていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9 あなたは、「はいっ」とみじかいへんじができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10 あなたは、外遊びや運動、スポーツに進んで取り組んでいますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11 あなたは、そうじの時間にだまって、進んでそうじをしていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12 あなたは、学校の授業や地域での活動への参加を通して、地域の大人とよく関わっていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13 あなたは、家庭学習の目標時間（10分×学年）を守っていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (2) あなたは、何年生ですか。
 1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生
- (3) ○そのほか、気づきや意見があれば、書いてください。

図3 学校評価アンケート（児童生徒用）

第1回 学校評価アンケート（保護者用）

田布施町立〇〇小学校

選択式の回答は、該当箇所のマーク①を塗りつぶしてご回答ください。
 ①：空白マーク ②：正しいぬりつぶし ③：不十分なぬりつぶし
 記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。
 この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したりしないように注意してください。

(1) ご自分のお子さんを通じた印象や思い、お考えなどを中心にお答えください。

	A そう思う	B だいたい いそう思う	C あまり思わない	D 思わない
1 あなたのおさんは、家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 おさんは、授業の内容がよくわかっていと思いますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 あなたのおさんは、家庭でよく読書をしていると思いますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 あなたのおさんは、進んで元気なあいさつができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 あなたのおさんは、話す人の目を見て、話を聞くことができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 あなたのおさんは、「はいっ」と、はきはきした返事をすることができますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 あなたのおさんは、外遊びや運動、スポーツに進んで取り組んでいますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 あなたのおさんは、家庭で、はき物をきちんとそろえていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9 あなたのおさんは、学校の授業や地域での活動への参加を通して、地域の大人とよく関わっていると思いますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10 あなたは、お子さんの家庭学習の取組について、目標時間（10分×学年）、内容ともに、確認していますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (2) お子様の学年は、何年生ですか。
 1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生
- (3) ○その他、上記の事柄に対して、ご意見がありましたらお書きください。その際、内容を詳しくお聞きしたい場合がありますので、差し支えなければ、記名をして提出してください。

図4 学校評価アンケート（保護者用）

2-3 学校評価集計ファイルの提供

各学校のアンケートが実施・回収された後、S Q Sシステムを使うことにより、集計を簡便に行うことができる。しかし、学校ごとの個別結果は得られるものの、町内全域における進捗状況や、町平均と比較した各学校の特色について把握することはできない。そのためには、自校の集計値と町全体の集計値を比較する必要が生じる。

こうした作業を効率よく行うため、筆者は「学校評価集計ファイル」を作成し、各学校へ提供した。

提供したファイルについて、図5で入力画面を、図6で出力画面（1学期末印刷用）、図7で出力画面（2学期末印刷用）を示す。

このファイルを作成する際のポイントとして、以下の6点を挙げたい。

- ①町内全小・中学校で共通して使用可能とする。
- ②町全体の実数や割合を先に入力したファイルを配布し、後で各学校のデータを入力できるようにする。
- ③出力画面では、ワンペーパーで「質問項目」「グラフ」「分析と対策」が示せるようにする。
- ④グラフは、1) 自校と町全体の教職員、2) 自校と町全体の児童生徒、3) 自校と町全体の保護者の順に、帯グラフで表示する。これにより、自校と町全体の比較及び、教職員と児童生徒と保護者の3者の比較を容易にする。
- ⑤分析や対策の記述については、定型文を示し、一定の分析視点を提示する。
- ⑥2学期末用集計ファイルは、1学期末との変容が、グラフで直感的に比較できるようにする。

田布施町立〇〇小学校

① 〇〇小学校欄に、学校名を打ち込んでください。

質問	教職員 あなたの学級(学校)の児童は、「はい」と返事をしていますか。						
	児童生徒 あなたは、「はい」とみじかいへんじができますか。						
	保護者 あなたのお子さんは、「はい」と、はきはきした返事をすることができますか。						
教職員	Aそう思う	Bだいたいそう思う	Cあまり思わない	D思わない	E無回答	Fエラー	合計
〇〇小実数	0	12	6	0	0	0	18
〇〇小教職員	0%	67%	33%	0%	0%	0%	100%
田布施町教職員	3%	68%	27%	0%	2%	0%	100%
児童生徒	Aそう思う	Bだいたいそう思う	Cあまり思わない	D思わない	E無回答	Fエラー	合計
〇〇小実数	164	50	15	2	0	0	231
〇〇小児童生徒	71%	22%	6%	1%	0%	0%	100%
田布施町児童生徒	3%	68%	27%	0%	2%	0%	100%
保護者	Aそう思う	Bだいたいそう思う	Cあまり思わない	D思わない	E無回答	Fエラー	合計
〇〇小実数	54	111	54	10	0	0	229
〇〇小保護者	24%	48%	24%	4%	0%	0%	100%
田布施町保護者	3%	68%	27%	0%	2%	0%	100%
グラフデータ							
教職員	Aそう思う	Bだいたい	Cあまり思	D思わない	E無回答	Fエラー	合計
〇〇小教職員	0%	67%	33%	0%	0%	0%	100%
田布施町教職員	3%	68%	27%	0%	2%	0%	100%
〇〇小児童生徒	71%	22%	6%	1%	0%	0%	100%
田布施町児童生徒	3%	68%	27%	0%	2%	0%	100%
〇〇小保護者	24%	48%	24%	4%	0%	0%	100%
田布施町保護者	3%	68%	27%	0%	2%	0%	100%

② 質問を、教職員、児童生徒、保護者ごとに打ち込んでください。教職員などのシートにすでに打ち込んであるので、コピーもできます。

③ 表の〇〇小の校名を打ち込んでください。

④ 〇〇小の実数を打ち込んでください。教職員などのシートにすでに打ち込んであるので、コピーもできます。割合は、自動計算します。

⑤ 田布施町の%を打ち込んでください。教職員などのシートにすでに打ち込んであるので、コピーもできます。

⑥ 印刷シートのグラフを見ながら、特徴的な部分を取り上げ、コメントしてください。

⑦ 今後の取組も、成果と課題に分けて記入してください。

⑧ 1つの設問に対応して、入力・印刷は1まとまりです。いくつもの設問を取り上げる場合は、入力・印刷のシートにカーソルを合わせ、それぞれ右クリックでコピーして増やしてください。

図5 学校評価集計ファイル（入力画面）

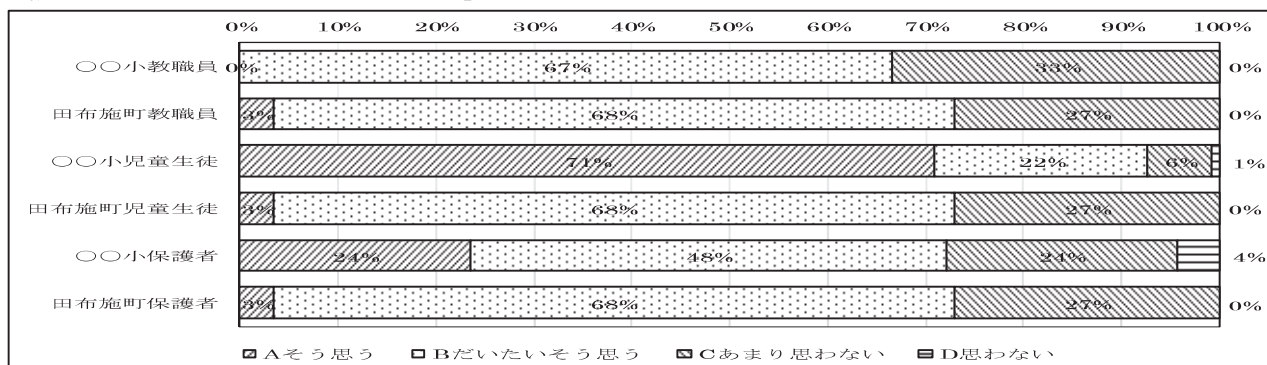
田布施町立〇〇小学校 学校評価結果（その1）

平成 28 年 8 月〇〇日
田布施町立〇〇小学校

質問

児童生徒 あなたは、「はいっ」とみじかいへんじができますか。

保護者 あなたのお子さんは、「はいっ」と、はきはきした返事をすることができますか。



〇〇に関する質問に対して、

本校の教職員は、… 田布施町全体と比べて、〇〇の特徴があります。同様な結果です。

本校の児童生徒は、… 田布施町全体と比べて、〇〇の特徴があります。同様な結果です。

本校の保護者は、… 田布施町全体と比べて、〇〇の特徴があります。同様な結果です。

教職員と児童生徒と保護者の間では、…

○これは、これまでの〇〇などの取組の成果と捉えており、引き続き充実を図ります。

○これは、これからの課題と捉えています。 この結果を受けて、①、②などに取り組みます。

図6 学校評価集計ファイル（1学期末印刷用）

田布施町立〇〇小学校 学校評価結果（その1）

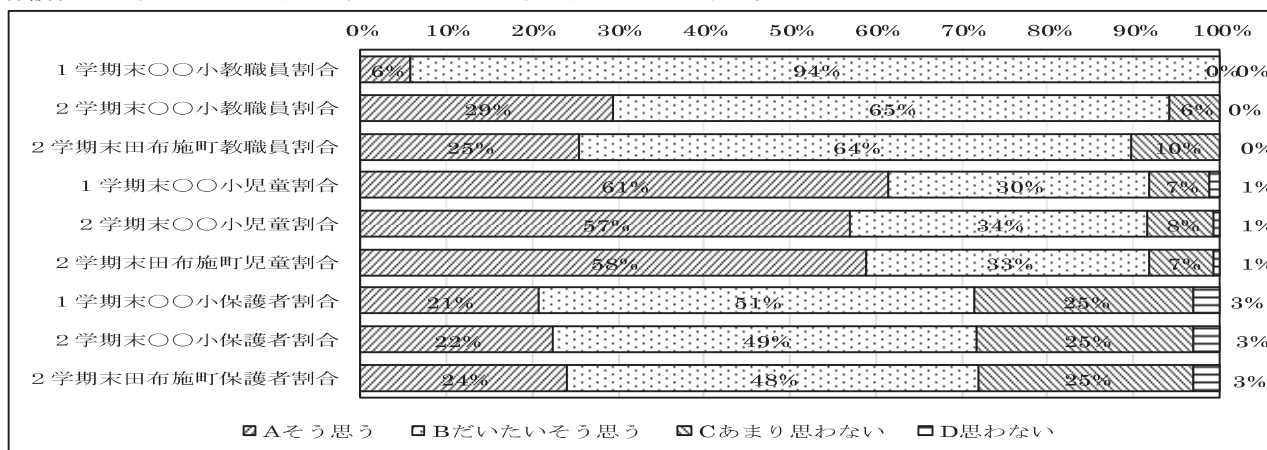
平成 29 年 2 月〇〇日
田布施町立〇〇小学校

質問

教職員 あなたの学級（学校）の児童は、進んであいさつができますか。

児童生徒 あなたは、であった人にすすんで元気なあいさつができますか。

保護者 あなたのお子さんは、進んで元気なあいさつができますか。



〇〇に関する質問に対して、

本校の教職員は、1 学期に比べ、2 学期は…のような変化があります。

また、田布施町全体と比べて、〇〇の特徴があります。

本校の児童生徒は、1 学期に比べ、2 学期は…のような変化があります。

また、田布施町全体と比べて、〇〇の特徴があります。

本校の保護者は、1 学期に比べ、2 学期は…のような変化があります。

また、田布施町全体と比べて、〇〇の特徴があります。

教職員と児童生徒と保護者の間では、…

○これは、これまでの〇〇などの取組の成果と捉えており、引き続き充実を図ります。

○これは、これからの課題と捉えています。 この結果を受けて、①、②などに取り組みます。

図7 学校評価集計ファイル（2学期末印刷用）

3. 学校評価の学校経営改善への活用

このようにして作成された学校評価の取組は、学校経営にどのように活用されているのであろうか。平成28年度の夏休み後半には、町内全小・中学校の学校運営協議会の代表者が一堂に会する場で、各校の校長が1学期末の学校評価の結果を踏まえ、2学期以降の学校経営の改善策を発表するという取組が行われた。

地域住民や保護者にとって、自分の居住地にある学校の取組はある程度知っていても、同じ町内にある他校の状況や取組を、校長の口から直接聞く機会は少ないと言ってよい。こうした取組により、町域全体に一定の水準が確保され、相互刺激の好循環の中から、小中一貫の教育が実現されるものと考えている。

こうした取組を下支えする背景として、田布施町内の全小・中学校が平成28年度からコミュニティ・スクールに指定されたことが挙げられる。子どもたちの育ちは学校単位に留まるものではないため、コミュニティ・スクールにおいても、校種間連携は重要なテーマである。小中一貫の教育とコミュニティ・スクールを一体的に導入することで、学校、保護者、地域住民が9年間を見通して育成すべき子ども像を明確にし、課題や解決策等について情報を共有し、協働する取組が可能となる。田布施町では、そのための重要なアイテムとして、町内共通の学校評価システムが活用されつつある。

おわりに

小中一貫教育が取り組まれる背景には、教育内容の量的・質的充実や、いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる中学校入学後の不登校やいじめの増加、少子化による社会性の育成機能の低下等の諸課題への対応が挙げられる。しかし、小中一貫実施校で実際に指導に当たる学校の教職員にとっては、カリキュラム編成や施設整備など解決すべきことが山積しており、「走りながら考える」といった現状にある。マネジメント・サイクルであるPDCAのうち、P（計画）とD（実行）の間を行き来しているとも言える。

これに対して、本稿で紹介した事例は、学校評価を効果的に活用することで、実質的な小中一貫教育の実現をめざしている。いわば、C（評価）とA（改善）からスタートする小中一貫化モデルと言える。近年、コンピテンシー・ベースの教育論が多く語られ、子どもたちに育成すべき資質・能力を、校種や教科を越えて明らかにする動きが加速している。学校評価を軸に、児童生徒のあるべき姿を示し、教員の指導の仕方を改善するという手法は、こうした教育論を現実の教室において機能させる有効な手法であると考えられる。

今後の課題として、学校評価を効果的に公表し、地域と共にある学校づくりへと活用する道筋について検討していかなければならない。本来、学校評価は、学校の教育活動を客観的に捉え、自己満足に終わることなく、次の改善へと向かうための手法として取り入れられたものである。学校評価により、学校を開き、校内外の関係者と情報を共有することにより、学校・家庭・地域の連携協働が加速し、小中一貫教育をはじめとする取組に、新たな展開が生まれることを期待している。

付記

本研究において、貴重な研修の場を提供いただいた山口県教育委員会、田布施町教育委員会、田布施町小中学校校長会、同教頭会、田布施町立麻郷小学校、同田布施西小学校、同東田布施小学校、同城南小学校、同田布施中学校の教職員の皆様に心からの敬意と謝意を表します。

引用文献

- 1) 中央教育審議会答申, 2014.
- 2) 同上, P. 33.
- 3) 前原隆志: 「小中連携による学校評価システムの構築について」 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第41号, 2016.
- 4) S Q S (Shared Questionnaire System) 千葉商科大学政策情報学部政策情報学科 教授 久保 裕也氏により開発された「共有アンケート実施支援システム」http://dev.sqs2.net/projects/sqs/wiki/Overview_ja